

2025/10/17 (予定) 機能追加

「新規識別リース資産情報」の事前登録に対応 他 16 件

Ver.250930

新リース会計基準対応

「新規識別リース資産情報」の事前登録に対応

奉行 V ERP

新リース会計基準適用前の事業年度でも「新規識別リース資産情報」を登録できるようになりました。
それに伴い、中メニュー名を以下のように変更しました。

変更前	変更後
〔法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用初年度 - 新規識別リース資産情報〕メニュー	〔法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - 新規識別リース資産情報〕メニュー

また、今までは登録と同時に [「リース資産情報」メニュー](#) に明細が追加されていましたが、今回の機能追加で両者は別管理となり [「リース負債等遡及計算」メニュー](#) の実行時に、[「リース資産情報」メニュー](#) にも明細が追加されるようになりました。

〔新規識別リース資産情報〕画面に「処理状況」が追加され振替済みかどうかを確認できます。

対応メニュー

〔法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - 新規識別リース資産情報〕メニュー

『奉行AIエージェント 新リース会計識別クラウド』で出力したExcelファイルの受け入れに対応

奉行 V ERP

『奉行AIエージェント 新リース会計識別クラウド』で出力された識別結果のExcelファイルを [「新規識別リース資産情報」メニュー](#) で受け入れできるようになりました。

ドラッグ & ドロップするだけで、新たに識別されたリース資産として一括で登録できます。

対応メニュー

〔法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - 新規識別リース資産情報〕メニュー

遡及計算方法の設定メニューを変更

奉行 V ERP

使用权資産・リース負債の遡及計算方法を、[「経理業務設定」メニュー](#) で設定するように変更しました。

[「経理業務設定」メニュー](#) で設定・保持できるため、[「リース負債等遡及計算」メニュー](#) の起動時に、都度設定する必要がなくなります。

対応メニュー

〔法人情報 - 経理規程 - 経理業務設定〕メニュー

契約番号の検索機能を追加

奉行 V ERP

リース資産を契約番号で検索できるようになりました。

主な資産名（同じ契約番号の一番若いコードの資産名）でも検索できます。

対応メニュー

[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース契約情報] メニュー

[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - リース期間見直し] メニュー

[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - 賃料改定] メニュー

再リース／返却時の操作性を向上

奉行V ERP

これまで別々に管理されていた再リース情報とリースの返却情報を、1つのメニューで登録できるようになりました。
リース契約の終了時に、再リースするか返却するかを同時に登録できます。
これに伴い、以下のメニューを統合し、名称を変更します。

変更前	変更後
[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - 再リース] メニュー	[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - リース期間満了] メニュー
[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - リース契約終了] メニュー	

対応メニュー

[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - リース期間満了] メニュー

新リース会計基準適用前の事業年度での「リース契約情報」メニュー・「リース期間満了」メニュー利用に対応

奉行V ERP

新リース会計基準適用前の事業年度でも、[「リース契約情報」メニュー](#)および「リース期間満了」メニューが利用できるようになりました。

対応メニュー

[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース契約情報] メニュー

[資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - リース期間満了] メニュー

新リース会計基準適用後の関連メニューの画面を最適化

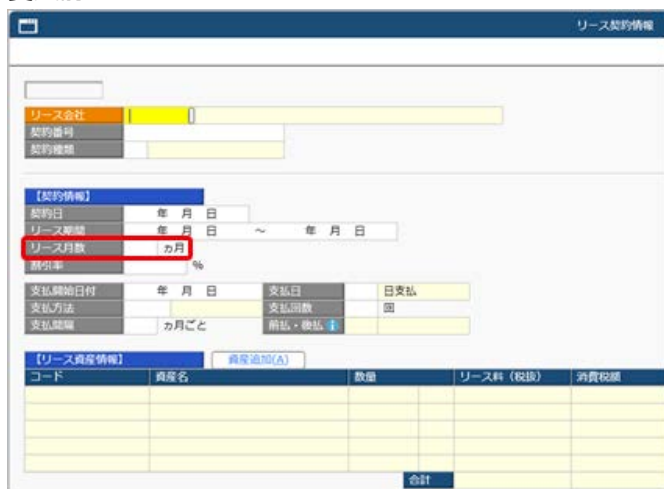
奉行V ERP

操作性と視認性の向上を図りました。

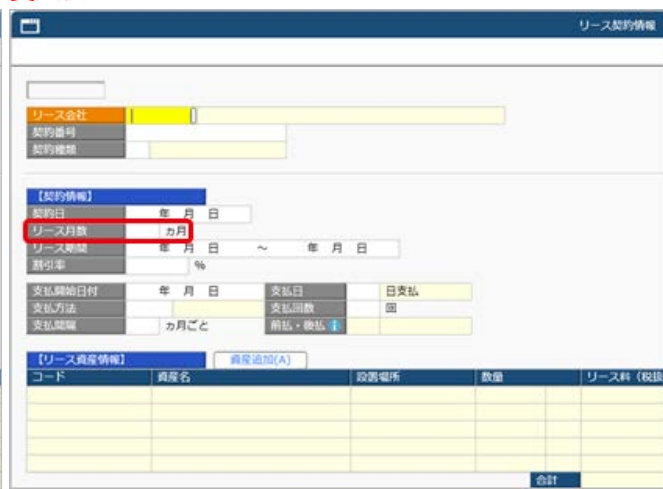
- 「リース月数」の配置変更

新リース会計基準適用後の事業年度において、新リース会計基準適用前の事業年度と同じ位置になるように「リース月数」の配置を変更しました。

変更前



変更後



- 「リース負債等遡及計算」メニューの画面変更

変更前

変更後

- ・「遡及影響額確認表」メニューの画面変更

変更前

変更後

対応メニュー

- ・「リース月数」の配置変更
「資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース契約情報」メニュー
「資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報」メニュー
「資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - リース期間見直し」メニュー
「資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報更新 - 賃料改定」メニュー
「資産管理 - 資産情報 - 電子帳簿保存 - リース資産情報履歴」メニュー
- ・「リース負債等遡及計算」メニューの画面変更
「法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - リース負債等遡及計算」メニュー
- ・「遡及影響額確認表」メニューの画面変更
「法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - 遡及影響額確認表」メニュー

法人情報

統合マスター管理の機能を強化

奉行V ERP

- ・統合取引先の初回統合時の基準になる『奉行クラウド』（優先順位）を設定できるようになりました。
これまでは『勘定奉行クラウド』が基準でしたが、統合管理できる他の『奉行クラウド』も基準にできます。
詳細は、目的から探す「[取引先の統合マスター管理を開始する](#)」をご参照ください。
- ・統合管理されている場合は、「取引先（得意先／仕入先）」メニューの画面上に「統合管理」と表示され、統合管理されていることが分かりやすくなりました。
また、まだ反映されていない内容がある場合は、「反映中」と表示されるようになりました。



- ・外部サービスの更新内容が各『奉行クラウド』への反映に失敗した場合、メインメニュー左上にメッセージが表示され、気づきやすくなりました。

- 外部サービスとの連携を強化しました。
- 統合取引先で保持していない得意先／支払先の項目（得意先のメールアドレスや支払先の源泉徴収の報酬区分など）も、[外部マスター管理[取引先]] メニューで関連付けして連携できるようになりました。
詳細は、目的から探す「[外部マスター\[取引先\]と統合取引先を連携する](#)」をご参照ください。
- 外部サービスと『奉行クラウド』で値が異なっている場合、変換して連携できるようになりました。
詳細は、目的から探す「[外部マスター\[取引先\]と統合取引先を連携する](#)」をご参照ください。
- 外部サービスのコードと『奉行クラウド』で管理するコードが異なる場合に、外部サービスのコードは『奉行クラウド』に反映させずに、同一マスターとして連携できるようになりました。
詳細は、メニューから探す「[外部マスター管理\[取引先\]](#)」をご参照ください。

統合マスター管理の詳細は、目的から探す「[統合マスター管理とは](#)」をご参照ください。

対応メニュー

[法人情報 - 取引先 - 取引先] メニュー

メインメニュー右上の（統合マスター管理）から [取引先 - 統合取引先] メニュー

メインメニュー右上の（統合マスター管理）から [取引先 - 外部マスター管理[取引先]] メニュー

メインメニュー右上の（統合マスター管理）から [統合マスター設定] メニュー

資産情報

減損損失額の配分に任意の「資産区分」を利用できるようにしてほしい

奉行V ERP

減損のグルーピング単位に「資産区分」を設定できるようになりました。

対応メニュー

[法人情報 - 経理規程 - 経理業務設定] メニュー

[資産管理 - 資産情報 - 資産情報更新 - 減損] メニュー

固定資産税

10,000 件を超える電子申告に対応

奉行V ERP

1 申告先あたりの明細数が 10,000 件を超える場合でも、電子申告できるようになりました。

対応メニュー

[税務申告 - 固定資産税 - 電子申告 - 固定資産税申告データ作成] メニュー

奉行AI

「奉行AIチャット」を搭載

当サービスに関する質問にAIが回答する「奉行AIチャット」を搭載しました。

すべてのメニューから「奉行AIチャット」を起動でき、疑問点をすぐに解決できます。

その他

ガイドの位置を自動調整

〔F11：ガイド〕を押して表示されるガイド画面を表示中にカーソルを移動すると、入力欄が隠れないよう、ガイドの表示位置が自動的に調整されるようになりました。

対応メニュー

〔法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - 新規識別リース資産情報〕メニュー（『奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

〔資産管理 - 資産情報 - 資産情報 - 資産情報〕メニュー

〔資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース契約情報〕メニュー（『奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

〔資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報〕メニュー（『Sシステム』または『奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

汎用で受け入れるファイルの上限サイズを 2 MBから 20 MBに変更

受け入れられるファイルの上限サイズが 20 MBになりました。

対応メニュー

メインメニュー右上の（データメンテナンス）から〔汎用データ受入〕メニューの各メニュー

汎用データを作成する際に、個人で利用できるパターンの作成に対応

[〔固定資産台帳〕メニュー](#)などの管理資料に加え、パターンを作成できる〔汎用データ作成〕メニューの各メニューでも、個人で利用できるパターンを作成できるようになりました。

パターンを作成する際に「個人利用」にチェックを付けると、個人で利用するパターンとして条件設定を保存できるので、他の利用者に変更・削除されずに毎回同じ条件で汎用データを作成できます。

対応メニュー

メインメニュー右上の（データメンテナンス）から〔汎用データ作成 - 資産管理 - 資産情報データ作成〕メニュー

メインメニュー右上の（データメンテナンス）から〔汎用データ作成 - 資産管理 - リース資産情報データ作成〕メニュー（『Sシステム』または『奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

メインメニュー右上の（データメンテナンス）から〔汎用データ作成 - 建設仮勘定管理 - 建設仮勘定情報データ作成〕メニュー（『建設仮勘定オプション for 固定資産奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

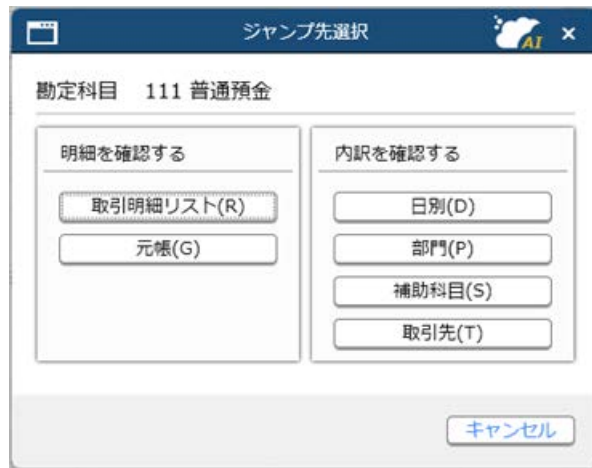
他メニューにジャンプする画面のデザインを変更

操作性向上のため、他メニューにジャンプする画面のデザインを変更しました。

変更前



変更後



（『勘定奉行クラウド』の画像です。）

対応メニュー

他メニューにジャンプできるすべてのメニュー

【条件設定】画面で指定する「固定位置」を画面上でも指定できる機能を追加

一括登録や一括修正をするメニューで、【条件設定】画面で設定する「固定位置」を、入力画面上で📌（ピン）で表示するようになりました。

画面上で📌（ピン）を動かして、固定位置を変更できます。

また、画面上で変更した固定位置は前回条件として保存・復元されます。

対応メニュー

【法人情報 - 経理規程 - リース会計基準適用 - 新規識別リース資産情報】メニュー（『奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

【法人情報 - 取引先 - 取引先】メニュー

【資産管理 - 資産情報 - 資産情報 - 資産情報一括登録】メニュー

【資産管理 - 資産情報 - リース資産情報 - リース資産情報一括登録】メニュー（『Sシステム』または『奉行V ERPクラウド』をご利用の場合）

画面の色合い（行の交互色）の濃淡の設定に対応

交互色の濃淡を 3 段階から選択できるようになりました。

この設定は、[「固定資産台帳」メニュー](#)や[「月次償却額一覧表」メニュー](#)など、交互色を使用しているすべての帳票（一覧表）に反映されます。

今回の機能追加に伴い、今までより濃い色合いの「標準」が初期設定として選択されています。



対応メニュー

メインメニュー右上の （個人設定）から「表示」メニュー

内容については、変更または次回以降へ延期する場合があります。